

STYLING

MONO

西洋の苗字にはその職業が由来になったものをよく見かける。たとえばスミスは鍛冶屋、テイラーは洋服屋、シューマンは靴屋など。そしてウエスコの創業者はシューメーカーという、その名の通りの姓を持つ男であった。



アメリカのいくつかのブランド史を調べていくと、創業者の視点にちよつとした共通項があることが判る。たとえばゴールドラッシュに沸いたカリフォルニアやコロラドで、金を掘り当てて大金持ちになったような人が、歴史に残るような偉業やブランドを設立した話は耳にしないが、金鉱に殺到する人を見て、その人たち相手に商売をして成功した人は少なくない。リーバイ・ストラウスやクアーズの創業者アドルフ・クアーズがそのいい例だ。金を見るのか、金に群がる人を見るのかで、人の人生は大きく変わっていく。一足のブーツを作るのに大量生産という手法で大きな利益を取るのか、それとも丁寧な手作りの姿勢を守るのか、そんな創業者の他とは異なる視点の置き方にちよつとした共通項が見出せるのだ。ウエスコという世界最高品質のワークブーツにもまた、同じような視点を持つ創業者の血が流れていた。



VOL.14
WESCO

SINCE 1918~

●特集【ウエスコ】

Photo/Tomoaki Tsuruda (WPP)

/Wesco Japan

Text/Teruhiko Doi (WPP)

STYLING

MONO

大恐慌で一旦閉鎖されたウエスコ社は
ポートランド近郊の小さな土地に
家を建てて、その地下室で事業を再開。
小さなブーツ工房での従業員は
すべて家族で賄い、日に8速程度の
生産しかできなかったが、ロッガーたちの
ブーツを作り続けたのである。



ヨーロッパからの移民の子であつたジョン・ヘンリー・シューメイカーは、16歳のときに靴工場で働いていた。そこで取得したブーツ・メイキングの技術を活かして1903年に西部へと向かう。現オレゴン州ポートランドで靴製造の仕事を見つけ、1918年に独立。「ウエスコ」ブランドの歴史はそこから始まる。作っていたのはロッガー・ブーツ。アメリカの産業全体がフォード式的大量生産で飛躍的な伸張を遂げ、世界に向けて米産品が発信されていた同時期に、シューメイカーは手作りの堅牢なブーツを作り続けていた。産業の礎となる林業に従事する人々の仕事の現場は苛酷で危険に満ち溢れており、彼らの足元を安全に固めるためのブーツは、手作りの確実な製品でないと信頼されなかつたからである。だが、1929年10月の大恐慌の影響がウエスコに容赦なく降りかかる。この苦しい時代を家族経営で乗り切つたシューメイカー一族の商売は、やがて大戦の勃発でブーツの需要が急増する。特に造船要員用エンジンニア・ブーツのオーダーが急増した。それまで日産8足程度の生産量だつた彼らの会社は事業を拡大し、戦後になつても変わらずぬ目ぐるしさをだつた。同時に新たなサービスとして「ブーツ・リビルド」を開始。頑丈な作りのブーツだからこそ生まれた視点ではなからうか。

若者は西へと旅立ち、広大な森で働く男たちの足元を見つめた

ウエスコのブーツに採用されるソールは主にピブラム・ソールとこのARMORTRED CUSHION / トラクションソール。トラクションソールは見た目が柔らかくなるのでタウンユースに適したデザイン。ただし、オイルレジストなど機能は完璧である。



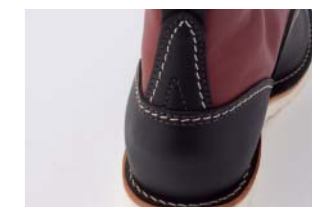
デザイン性の良さとスタイルの汎用性の広さで最も人気のあるワークブーツ「JOBMASTER」シリーズ。定番モデルの他にこの写真のようなカスタムも充実しているのでチェック!



ミッドソールからヴァンプにかけての丁寧な作りに注目。一足のブーツに費やされる作業はハンドクラフトによる155もの工程。他のメーカーに先駆けて採用したスティールシャンクは最高の信頼性と履き心地を実現した。



ウエスコ・ブーツ最大の特徴であるカスタム・フィット・オーダーシステムは十数か所にも及ぶ採寸や履き心地などをチェックして自分だけの一足を完成させる。同時にパーツごとのレザーのカラーや糸の色、レースの色なども好みで選ぶことができる。





黒いレザーとニッケル・バックルの絶妙なコントラストはファッションにおける足元のスタイリングの重要性を改めて教えてくれるデザイン。これがファッションを意図したデザインではなく機能の延長線にあるデザインであるところを評価したい。

チマシーンなど、一部機械化された部分もあるが、それでもハンドクラフトの工程は155にも及ぶという。靴に足を合わせるのではなく、足に靴を合わせるというこの単純なことが、実は世の中の多くのワークブーツでは実践されていない。カスターム・フィット・オーダーシステムという販売方法を頑なに守ることがブランドのアイデンティティ。タフな環境の中で仕事に従事する人々の足元を守るためには、決して譲れない同社のスタイルなのだ。それが世界最高のブーツと呼ばれる所以である。



ビブラム・ソールの安心感はこのブーツを履いた人にしか実感できない。ヒールベースがレザーであることが確認できる。

いまもウエスコの本社には、近隣のロッガーたちが立ち寄ってブーツの修理を依頼していく光景が見られるという。またウエスコを履いていたおかげで大きなケガをしなくて済んだ」といった内容のお礼状が世界中から届くそう。スパイクのパン

で、生産力を伸ばすことが出来るようになった。同時に品質が安定したことは言うまでもない。その後のロッガー・ブーツのプロダクションはこの発案以降、画期的に変化することになる。

世のファミリービジネスが消えつつある中、創業者のジョン・シューメイカーが1961年に他界した後も、脈々と受け継がれるウエスコの魂。現在はファミリー3代目のロバート・シューメイカーが同社を運営している。



世界最高のモーターサイクルブーツと評価される「BOSS」は同時に、現代のファッション・ブーツとしても人気を博す。カジュアルスタイルには欠かすことの出来ないアイコンともいえる。



頑丈なダブルステッチ、最高級のレザー、そして美しいシルエット。型崩れを防ぎながらも土踏まずを保護。それでいて、足への負担を軽減するスティールシャンクの採用で丈夫さと履き心地の良さを実現。これがウエスコを履いた人が夢中になってしまう履き心地を生む。

STYLING

MONO

ウエスコ・ブーツについての
問い合わせは
ウエスコ ジャパン
☎06-6783-6888
<http://www.wescojapan.com>



創業者のジョン・ヘンリー・
シューメイカーと
1920~30年代の
アメリカの街並み。
WEST COAST
SHOE COMPANY
の看板が見える。

クレープソールの
「JOBMASTER」8インチ
3種類のレーシングパターン
10種類のレザー色
11種類のソールなど
カスタムでオーダーする楽しみ。
写真のモデルで
価格10万590円



世界最高の蓄れ高い
モーターサイクルブーツ
「BOSS」11インチ
価格9万4290円



2003年にラインナップされた
「FIREFORMER」8インチ
消防士のためのブーツで
その耐水・耐火性の凄さが
ニュースになったほど。
価格9万6390円



ウエスコの中で最も
ファッション性の高い
ブーツといえる
「HARNES」11インチ
価格9万2190円

